

CASBEE-建築(新築)2014年版
株式会社資源火力発電所石炭・バイオマス焚き発電設備建設工事【屋内貯炭場建屋】

欄に数値またはコメントを記入

 ■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.3.01)

スコアシート 実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質						2.6
Q1 室内環境						
1 音環境		-	-	-	-	-
1.1 騒音		-	-	-	-	-
1.2 遮音		-	-	-	-	-
1 開口部遮音性能		-	-	-	-	-
2 界壁遮音性能		-	-	-	-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-	-
1.3 吸音		-	-	-	-	-
2 温熱環境		-	-	-	-	-
2.1 室温制御		-	-	-	-	-
1 室温		-	-	-	-	-
2 外皮性能		-	-	-	-	-
3 ゾーン別制御性		-	-	-	-	-
2.2 湿度制御		-	-	-	-	-
2.3 空調方式		-	-	-	-	-
3 光・視環境		-	-	-	-	-
3.1 昼光利用		-	-	-	-	-
1 昼光率		-	-	-	-	-
2 方位別開口		-	-	-	-	-
3 昼光利用設備		-	-	-	-	-
3.2 グレア対策		-	-	-	-	-
1 昼光制御		-	-	-	-	-
3.3 照度		-	-	-	-	-
3.4 照明制御		-	-	-	-	-
4 空気質環境		-	-	-	-	-
4.1 発生源対策		-	-	-	-	-
1 化学汚染物質		-	-	-	-	-
2 臭気対策		-	-	-	-	-
4.2 換気		-	-	-	-	-
1 換気量		-	-	-	-	-
2 自然換気性能		-	-	-	-	-
3 取り入れ外気への配慮		-	-	-	-	-
4.3 運用管理		-	-	-	-	-
1 CO ₂ の監視		-	-	-	-	-
2 喫煙の制御		-	-	-	-	-
Q2 サービス性能		-	0.43	-	-	3.2
1 機能性		-	-	-	-	-
1.1 機能性・使いやすさ		-	-	-	-	-
1 広さ・収納性		-	-	-	-	-
2 高度情報通信設備対応		-	-	-	-	-
3 バリアフリー計画		-	-	-	-	-
1.2 心理性・快適性		-	-	-	-	-
1 広さ感・景観		-	-	-	-	-
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-	-
3 内装計画		-	-	-	-	-
1.3 維持管理		-	-	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計		-	-	-	-	-
2 維持管理用機能の確保		-	-	-	-	-
3 電気管理業務		-	-	-	-	-
2 耐用性・信頼性		2.7	0.50	-	-	2.7
2.1 耐震・免震		3.0	0.50	-	-	-
1 耐震性		3.0	0.80	-	-	-
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数		3.4	0.30	-	-	-
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.22	-	-	-
2 外壁仕上材の補修必要間隔	角波サイディング+フッ素樹脂:30年	5.0	0.22	-	-	-
3 主要内装仕上材の更新必要間隔	床:コンクリート30年	5.0	0.11	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		-	-	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.22	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔		2.0	0.22	-	-	-

2.4 信頼性	1	空調・換気設備		1.0	0.20		-	
	2	給排水・衛生設備		-	-		-	
	3	電気設備		1.0	0.33		-	
	4	機械・配管支持方法		1.0	0.33		-	
	5	通信・情報設備		-	-		-	
3 対応性・更新性			3.7	0.50		-	3.7	
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30		-		
1 階高のゆとり			階高3.9m以上確保 [壁長さ比率]<0.1	5.0	0.60		-	
2 空間の形状・自由さ				5.0	0.40		-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.30		-	
3.3 設備の更新性				3.2	0.40		-	
1 空調配管の更新性			内装仕上がないS造で構造部材、仕上材を痛めることなく修繕、更新	-	-		-	
2 給排水管の更新性				3.0	0.29		-	
3 電気配線の更新性				5.0	0.14		-	
4 通信配線の更新性				-	-		-	
5 設備機器の更新性				3.0	0.29		-	
6 バックアップスペースの確保				3.0	0.29		-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.57	-	-	2.2	
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30		-	1.0	
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40		-	3.0	
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30		-	2.5	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50		-		
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50		-		
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.2	
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.5	
1 建物外皮の熱負荷抑制				-		-	-	
2 自然エネルギー利用			3.0	0.13		-	3.0	
3 設備システムの高効率化			BEIm 非住宅 0.36 住宅(専有部) -	4.0	0.63		4.0	
集合住宅以外の評価(3a.3b)			LED照明を採用	4.0	1.00		-	
集合住宅の評価(3c)				-	-		-	
4 効率的運用				2.5	0.25		-	2.5
集合住宅以外の評価				2.5	1.00		-	
4.1 モニタリング				3.0	0.50		-	
4.2 運用管理体制				2.0	0.50		-	
集合住宅の評価				-	-		-	
4.1 モニタリング				-	-		-	
4.2 運用管理体制				-	-		-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.7	
1 水資源保護			2.2	0.20		-	2.2	
1.1 節水			1.0	0.40		-		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60		-		
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70		-		
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30		-		
2 非再生性資源の使用量削減			2.8	0.60		-	2.8	
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.11		-		
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22		-		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	3.0	0.22		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			-	1.0	0.22		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-		-		
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			内装材がないため、分別が不要で設備との錯綜がない	5.0	0.22		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20		-	3.0	
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30		-		
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70		-		
1 消火剤			-	-		-		
2 発泡剤(断熱材等)			3.0	1.00		-		
3 冷媒			-	-		-		
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.5	
1 地球温暖化への配慮			ライフサイクルCO2の排出量が一般的な建物に対して66%	4.3	0.33		-	4.3
2 地域環境への配慮				3.2	0.33		-	3.2
2.1 大気汚染防止			燃焼機器を使用していない	5.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.0	0.25		-	
1 雨水排水負荷低減				-	-		-	
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.33		-	
3 交通負荷抑制				2.0	0.33		-	
4 廃棄物処理負荷抑制				1.0	0.33		-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33		-	3.0	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40		-		
1 騒音			3.0	0.50		-		
2 振動			-	-		-		
3 悪臭			3.0	0.50		-		
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40		-		
1 風害の抑制			3.0	0.70		-		
2 砂塵の抑制				-		-		
3 日照障害の抑制			3.0	0.30		-		
3.3 光害の抑制			3.0	0.20		-		
1 屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策			3.0	0.70		-		
2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30		-		